

合理的配慮の提供事例報告書【中学校】

事例の概要

肢体不自由特別支援学級に在籍する、A町立B中学校2年生徒Cは、脳性麻痺による両下肢機能障がいがあり、左足のみに装具をつけている。小学校では、車椅子やPCW歩行器を使うことが多かったが、中学校入学前に手術を受け、トレーニングを継続して行い、自力歩行中心に生活している。しかし、腕の筋力や指先の巧緻性に欠ける面もある。また、歩く時のバランスが悪く、常に転倒防止の配慮が必要である。本人も保護者も高校進学を希望しており、将来自立して生活するために、身体面、精神面、学習面で、力をつけていきたいと願っている。保護者は、他の生徒と同じように学校生活を過ごしてほしい、体育の授業や部活動も可能なかぎり参加させたいという願いを持っている。B中学校では、保護者と本人の思いを聞き、リハビリを行っている担当医からのアドバイスも受け、校内教育支援委員会で合理的配慮の内容、方法などを協議し、A町教育委員会にも相談するなどして、支援内容を決定した。生徒Cの安全を第一に考え、運動場へ降りる階段に手すりを設置するなど、校舎校地内の移動ができるだけ自分の力でできるよう配慮した。また、担当医の意見を聞き、有効な筋力トレーニングができるよう心がけた。その結果体力がつき、運動会など体育的行事にも参加でき、自信を持って学校生活を送っている様子が見られる。

1 対象生徒の障害種

肢体不自由

2 障害の程度

該当(肢体不自由)

※学校教育法施行令22条の3に該当か非該当か

3 在籍状況

中学校・特別支援学級

4 学年

中2

5 対象生徒の実態

脳性麻痺(脳室周囲白質軟化症)による両下肢機能障がいがあり、左足のみに装具をつけ、歩行している。左下肢腱切除手術を小学校6年生時に受け、その後リハビリやトレーニングを続けている。階段の上り下りは自力でできるが、体のバランスが悪く、平らな場所でも転倒しそうになる。長距離の歩行は疲れすぎるなど難しい場合があり、エレベーターを使用したり、体調面で問題がある時は、車椅子を使用したりしている。また、指先を器用に使うことができず、技能教科の作品作りなどは、補助が必要である。1年生時は、運動会練習で疲れてしまい、当日は参加できなかった。普段は、筋力をつけるためと自立する力をつけるため、自力での歩行を心がけている。移動の時は、担任を中心に教職員が付き添い、転倒防止など安全面の配慮を行っている。

また、体育担当と部活動の顧問が連携し、自立活動の時間だけでなく、体育や部活動においても有効な筋力トレーニングが行えるよう心がけている。その結果、2年生になると体力がつき、車椅子を使用することも無かった。保護者も本人も普通高校進学を希望しており、それを目標に学習に励んでいる。数学と英語に苦手意識があるが、努力目標を掲げるなど前向きに取り組もうとする様子が見られる。

6 対象生徒についての合意形成に至るまでの経緯

(1 誰からの申し出か 2 申し出の内容 3 連携、調整した関係機関 4 合意形成に至った結論)

中学校に進学するにあたり、特別支援学級担当教員が母親と面談し、生徒Cの特性や家庭での状況、どのような支援を希望しているのかなどを聞いた。母親は、普通高校への進学を目指し、それに相応した学力と体力を身に付けさせたい、日常生活の自立を目指し、特に階段の上り下りを安全に行えるよう歩行訓練やリハビリを続けさせたい、

また、野球部に入部させ、本人ができることをさせていきたいことなど、両親や本人の願いを話された。小学校の担任とも話し合い、本人の特性や身体の状態、学習の様子などを引き継いだ。保護者からの聞き取り、小学校との引き継ぎ、リハビリを担当している医師の助言を受け、管理職、特別支援学級担当教員、各学年の代表、特別支援教育コーディネーターによる校内教育支援委員会を開き、協議し、合理的配慮の内容や提供方法を決定した。以後継続して、情報交換を行い、本人の身体の状態や願い等を把握し、課題を明確にしてより適切な合理的配慮の内容や提供方法について検討している。取り組みの内容については、適宜担任から保護者に伝え、合意が得られている。

7 基礎的環境整備の視点と概要

基礎① ネットワークの形成・連続性のある多様な学びの場の活用

生徒CはA町の公立病院で定期的にリハビリを受けており、受診の際には、担任も同席したり、同席できない時には保護者から様子を必ず聞いたりしている。担当医とも密に連絡を取り、本人の体の状態を常に把握しながら、適切なトレーニングが学校でも行えるよう助言を受けている。その指導の下、壁立ちトレーニングや歩行トレーニングを継続的に行い、筋力やバランス力をつけるとともに安定した歩行ができるように指導している。体育担当や部活動の顧問とも協力し、体幹を鍛えたり、筋力をつける運動に取り組み、運動能力の向上を図っている。

基礎⑤ 施設・設備の整備

昇降口にはスロープが設置され、特別支援学級教室が1階にあるので歩行で問題なく移動できる。肢体不自由特別支援学級は職員室・保健室に近く、車椅子用トイレもすぐ側に配置されている。特別支援教室にはシャワールームがあり、洗濯機も設置されている。特別支援教室には3畳の畳の間があり、機能訓練や休息、着替えに活用できるようになっている。低い位置に学習用具を整理するための棚が設置され、自らの手で整理整頓ができるようになっている。学習や指先の機能訓練のためパソコンが配置されており体験学習を取り入れるためのテレビがある。全ての階段の両側に手すりが設置されており、安全に階段の上り下りができるようになっている。エレベーターが設置されており、校内様々な教室への移動が階段を使うことなくできるようになっている。運動場へ移動するための階段に手すりを設置し、自分の力で安全に上り下りできるようになっている。

8 合理的配慮の観点と概要

合理①-1-1 学習上又は生活上の困難を改善・克服するための配慮

生徒Cは小学校の頃から野球をしており、中学校に入学しても野球部に入りたいと強く希望していた。また、体育の授業も可能な限り他の生徒と一緒に取り組ませたい、移動も機能訓練を兼ね、自立心をつけるためにも自分の力でさせたいという保護者の申し出があった。しかし、B中学校の運動場は、校舎から低い場所があり、部活動の着替えをする部室も同じ場所にあるため、常に階段の上り下りをする必要があった。保護者の願いとその状況を考慮し、校長と特別支援学級の担任、部活動の顧問が話し合い、運動場の階段に手すりを設置することを教育委員会に申し出た。その結果、すぐに手すりが設置された。本人は移動が楽になり、体育の時も部活動の時も、積極的に活動するようになり、特に部活動では、自分のできることを進んで見つけようとする意欲が見られるようになってきた。

合理①-1-2 学習内容の変更・調整

体育の授業もできるだけ交流学級の生徒とともに活動したいという生徒Cの願いを考慮し、担当医の助言を受けながら、準備体操や球技(ソフトボールなど)には、他の生徒と一緒に取り組んでいる。準備体操では走ることができないので、ラインに沿って真っ直ぐ歩く練習をしている。走り幅跳びなどできない活動内容の時には、体育担当と連携し、担当医のアドバイスにそって、特別支援学級で、体幹を鍛えるためのバランスボールによるストレッチ、太腿の筋肉を鍛えるための足ボーリング、上半身の筋力を鍛えるためのダンベル運動などを行っている。またこれらの運動は授業だけではなく、部活動においても同様の取り組みをすることで、継続して行うことができている。また、指先を上手に使うことができず、美術や技術、家庭科など作業が伴う学習については、苦手意識が強く作業に時間がかかったり、道具を安全に使えなかったりしていた。そのため、教科担当と担任が連携をとり、補習学習をして、できるだけ自分の力で完成に近づけるようにさせた。また、特別支援学級で指先を使った作業に取り組ませ、道具の使い方や作業手順を理解させるとともに作る楽しさや完成したときの達成感を感じさせるようにした。

9 成果と課題

成果は、運動場へ下りる階段の設置など、保護者と本人の願いを踏まえたうえで、迅速に教育委員会と協議し、適切な合理的配慮の提供ができた点である。それによって、生徒C自身が、安心感を持って学校生活を送っている様子が見られ、保護者も学校に対して信頼感をもち、様々なことを連絡・相談するようになった。また、学校でのトレーニングも功を奏し、着実に体力や太腿の筋力がついてきている。1年生の時には、体調を崩し、参加できなかった運動会も、2年生では最後まで自分のできることをやり遂げ、自信を深めたようである。校内の移動も、今年度は車椅子を使うことは一度も無く、手すりを利用するなどして、自力歩行で行こうという意欲がさらに高まってきた。自立心も芽生え、授業中も補助や助言を求めず、まず自分の力でやろうとする強さが身に付いてきた。保護者との連携が密にできている面も、本人の指導に良い影響を与えている。担任がきめ細かく本人の学校での様子や指導方針などを連絡するので、保護者の同意や協力が得やすく、学校と家庭が同じ歩調で指導できている。

課題は、本人の心身の成長に伴い、より適切な合理的配慮の提供を図ることである。そのためには、本人の状況を、きちんと把握できるよう今まで以上に保護者との意思疎通を図っていかなければならない。また、全職員で見守り、共通理解しながら指導に当たる必要がある。体の成長は、トレーニング方法の変更につながるもので、担当医とも常に連絡を取り合っていかなければならない。学校・家庭・専門機関のより密接な連携が重要であると考えられる。